

科目名	日本国憲法		
担当者	徳岡 努		
配当学年	2	単位	2
クラス	全学科		
開講年度学期	2017年度 Ⅲ学期～Ⅳ学期		
授業の目標(到達目標)	①日本国憲法についての基本的な理解と知識の習得を図る。 ②憲法が法の中の法として社会の中で具体的な各種の法解釈や裁判等にいかにか活かされているか、時事的な問題や判例をヒントに探求する。		
授業内容	現在、憲法を巡って世論は大きく揺れている。憲法改正への流れが高まる一方、その擁護と保持を主張する立場がある。しかし、どちらの立場をとるにせよ、戦後70年近く日本の社会の理念として大きな影響を与えてきた憲法について、しっかりと理解し、その理念の意義や課題を抑えておかなければ、変革期にある日本の社会に生きる国民としての自覚と責任を果たせないだろう。また、身近な社会生活のなかで出会う様々な問題に直面した時に、その課題解決に当たって、憲法が示す規範は、大いに参考にしたい。このために、本授業では、人権や民主政治のしくみに関係する様々な時事的な話題を取り上げながら、そうした問題に関わる憲法に則った各種の裁判での判例などを取り上げて、憲法の意義と今後の課題について考える機会としたい。特に、司法改革における裁判員制度については、裁判所見学や模擬裁判なども実際におこなってみたい。		
授業計画	1 授業の進め方、評価方法について・憲法とは何か。憲法成立を巡る歴史的背景等 2 人権①(定義・子どもの人権・外国人の権利等) 3 人権②(プライバシー権・自己決定権) 4 法の下での平等(男女平等・男女雇用機会均等法・存続殺人等) 5 信教の自由と表現の自由 6 労働者としての権利 7 その他の人権(経済的自由・生存権・教育権等) 8 人権についての総括 9 民主政治のしくみ(象徴天皇制・平和主義等) 10 国会と選挙(二院制・内閣等) 11 裁判所と司法制度改革(裁判所見学等を含む) 12 裁判員裁判(模擬裁判等を含む) 13 地方自治(住民投票等) 14 憲法改正について 15 民主政治のしくみの総括		
成績評価	【成績評価基準】 ・憲法の基本的理解や知識を身につける。 ・憲法に則り、各種の法律を解釈し適用する、法的思考方法を見につける。 ・憲法につながる各種の政治的・社会的問題に対する主体的な思考や判断力を身につける。 【成績評価方法】 毎回、質問紙の形式で、各授業で学んだ基本的知識や理解を確認する簡易レポートの提出状況と定期試験で総合的に評価する。 定期試験 (60%) 授業内レポート (40%)		
他の科目との関係等学習上および履修上の注意点			
人権や政治に関する教養としての時事問題への興味・関心を高める意欲を持ってほしい。			
教科書			
書籍名	著者	出版社	出版年
『いちばんやさしい 憲法入門』	初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行	有斐閣アルマ	2016年
参考文献			
書籍名	著者	出版社	出版年